



MGF は、☑神第一主義、☑キリスト中心主義、☑聖霊主導主義の教会

礼拝黙想 Meditating on Worship

「クリスチャンは、ユダヤ人を軽蔑したり、思いやりのないことを言うべきでない人間だ。」(チャールズ・スポルジョン)

A ビホールド イスラエル

ニュースレター 2023年10月26日
配信版

戦争中の国からシャローム。「でもアミール、北にも南にも敵がいるのに、どうして平安でいられるの？」まず第一に、北と南にはこれまでも常に敵がいました。彼らは今、さらに活発になっているだけです。しかし第二に、私の平安は私を取り巻く狂気や平穏から来るものではありません。そのような状況的な平安は一時的なものであり、本当の基盤はありません。私の平安は永続的なものです。それは聖書という強固な土台の上に築かれ、約束を守る創造主の御性質にその裏付けを見出すからです。私はイスラエル国防軍(IDF)を愛し、支持しており、米国が私たちに与えてくれる援助に感謝していますが、それらは真に支配しておられる方の手にある道具に過ぎないと認識しています。ある者はジェット機を誇り、ある者はアイアンドームを誇る。しかし、私は私たちの神、主の御名を誇ろう。とはいえ、ここは今、平和な土地ではありません。私は以前、イスラエルでの安全を心配するツアー参加者に、「ここイスラエルにいるよりも、あなたの国で空港に向かう道中の方が危険だよ」とよく言っていました。今はそうではありません。私の国では、どこに行っても不安が感じられます。その不安の第一の原因は、全国的なトラウマの後遺症です。親は子供を一人で外出させず、子どもたちは両親と一緒にベッドで寝ています。今夜こそ、男たちが家に押し入ってくるに違いないと確信しているからです。私たちは小さな国家です。これは、イスラエル国民全員が、10月7日の攻撃を行った大量虐殺テロリストの射程圏内にいたこと、そして現在もいることを意味します。そのため、多くの人は夜に目を閉じると、「もしあれが私の家族だ

ったら」と考えずにはいられず、その恐ろしいシナリオが展開されるのを想像してしまうのです。この社会は傷を負い、その傷が癒えるまでには何年もかかるでしょう。

私たちを不安にさせるもう一つの原因は、本当の戦争はまだ始まっていないという知識です。南部での地上戦の準備は整っていますが、侵攻はまだ始まっていません。IDFが保留しているのにはいくつかの理由があります。第一に、日が経つにつれ、ガザをさらに軟化させることができます。市民は1週間以上前から、国境地域を離れて南へ向かうよう警告されており、まだ残っているのは、深く入り組んだトンネルシステムに隠れているハマスとイスラム聖戦だけだと予想されています。IDFが空からこれらのテロ組織に対処できればできるほど、地上部隊が進軍してきたときの安全性は高まります。遅れの第二の理由は、米国がイスラエルに地上攻撃を延期するよう要請したことです。彼らはまだ、戦争の次の段階に向けて軍隊を完全に準備し、保護する準備を進めているところです。彼らの要請には拘束力はありませんが、イスラエル政府はそれを尊重しています。第一に、アメリカは良き軍事的友好国であり、大量の武器や物資の供給国だからです。第二に、それが正しいことだからです。IDFがガザを侵攻に備えて十分弱体化できたと感じ、米軍が戦争の次の段階に進む準備が整えば、イスラエル軍はテロリストを根絶するために南の国境を越えるでしょう。しかし、まだ始まっていないのは南部での戦争だけではなく、北部ではヒズボラが攻撃を開始しておらず、ヒズボラが攻撃を開始すれば、何万発ものロケット弾がレバノンから国境を越えてイスラエルに撃ち込まれることになり、イスラエルの不安を理解するために必要

なのは、基本的な計算だけです。もしヒズボラが2万5000発のロケット弾しか発射せず、アイアンドームがその90%を撃ち落とすとしても、2500発のミサイルがイスラエルの都市や町に着弾し、壊滅的な影響を与えることになります。それは航空攻撃だけです。ヒズボラは、10万人の自爆テロ犯がイスラエル北部国境を越える準備をしていると主張しています。彼らは死を祝う文化と宗教に洗脳されたテロリストです。このゾンビのような大群は、ユダヤ人を殺し、アッラーへの殉教者になるために、イスラエルを侵略する機会を興奮して待っています。生命を愛し尊重する私たちの文化は、このような暴力的な死の崇拝にどのように立ち向かえばよいのでしょうか？破壊的な力です。このような時、わが軍が何よりも無視すべき言葉は、「均衡」、「穏健」、「妥協」です。

イスラエルで起きていることは、まだ初期段階にあります。状況は依然として不安定で、常に変化しており、日が進むにつれて、注意を向けるべき分野があります:

北の国境

南部のガザはIDFが始末する。ハマスは打撃を受けており、まもなく消滅するだろう。しかし、ヒズボラにとってのハマスは、マイク・タイソンにとっての校庭のいじめっ子のようなものだ。レバノンのヒズボラは、ハマスが夢見ることしかできないような資金、訓練、武器、組織を持っている。彼らはまた、イスラム革命防衛隊(IRGC=イラン軍)の中でも特に暴力的なコッズ部隊と密接かつ直接的な関係にある。北方地域での戦争が始まれば、イスラエルは南方から侵攻してきた勢力よりもはるかに強力で冷酷な勢力に直面することになる。

イエメンのフーシ派

このイランと同盟を結んだ反政府勢力は、すでに、イスラエルに向けて大規模な空襲を行っている。巡航ミサイル 4 発と無人機 14 機がイスラエル南部の都市エイラトに向けて発射された。幸いなことに、アメリカの誘導ミサイル駆逐艦 USS カーニーが、目的地に到達する前に撃墜した。イランはサウジアラビアとの戦いでフーシ派に十分な支援を行っており、アヤトラはこのテロ反乱軍に、兵器の一部をイスラエルの方向に向けるよう命じているようだ。

イラン

すべての中心にいるのがイランである。このイスラム主義政権は、代理民兵のネットワークで何千、何万ものテロリスト戦士を募集し、訓練し、武装させるために、何年も何千ドルも費やしてきた。その多くはイラクとシリアにあるが、南はイエメン、南西はハマスとパレスチナのイスラム聖戦、そして西はヒズボラまで及んでいる。イラン、ひいては民兵組織の最終的な目標は、イスラエルの破壊とユダヤ人の根絶である。だからこそ、現米国政権が 60 億ドルをテヘランに放出するのを見るのは、非常に腹立たしい。その資金はイラン国民の福祉には使われることはなく、それは 10 月 7 日に私たちが目撃したような出来事をさら助長するだけである。また、シリアに駐留する米軍に対する攻撃の増加にも使われるだろう。先週だけでも、ドローン攻撃により 20 人の米軍兵士が負傷した。さらに昨日は、別のイラン武装民兵組織が UAE とクウェートにある米軍基地に対して脅迫を行った。

国連(UN)

攻撃後のイスラエルに対する世界的な支持は、すでに衰え始めている。国際的な感情の先導者は、常に国連である。火曜日、アントニオ・グテーレス事務総長は安全保障理事会の会合で、ハマスの攻撃は「何もない状況で急に起こったわけ

はない」とコメントした。彼は続けて、パレスチナ人は「息苦しい占領下」で暮らしていると主張し、乳児の惨殺や家族の焼き討ちを正当化した。犯されたことの倫理的根拠を示すことができる人間がいるというのは、ぞっとすることだ。しかし、彼の感情は日を追うごとに広がっている。南部攻撃が始まり、北部戦線が開戦すれば、イスラエルの不均衡を非難する決議案の議論が始まるだろう。イスラエルを非難する最初の決議案が可決され、世界が反ユダヤ主義の既定路線に逆戻りする日もそう遠くはない。

リベラル・メディア

ハマスが、イスラエル国防軍が病院を標的にして数百人を殺害したと虚偽の主張をしてから一週間が経ったが、ニューヨーク・タイムズ紙は今もそれが起こった可能性を必死に証明しようとしている。同紙は月曜日、ハマスの情報に頼り、記事が間違えていたことを謝罪した。そして火曜日、彼らは「ガザ病院爆発におけるいくつかの重要な証拠を詳しく見る」と題された新たな調査報告書を携えて戻ってきたが、その中で彼らは基本的に「実際、誰がやったのか本当に分からない」と言っている。ケーブルニュースネットワークや大手新聞社が、イスラエルは善で、パレスチナは悪であるというストーリーを報道するのは、彼らの本性に反しているため、長くは続かない。メディアが反イスラエルの記事に戻るのに十分な時間が経過したと感じたら、世論も一緒に戻るだろう。

パレスチナ抗議デモ

ヨーロッパは、自国の政府を転覆させ、シャリア法に置き換えることを望む者たちが自国内に多数存在するという真実に目覚めつつある。西側諸国は北アフリカや中東からの移民の洪水に国境を開放することで、眠れる巨人を招き入れたのだ。10 月 7 日の虐殺に続く大規模な親パレスチナ派の抗議行動で、多くの人々がその巨人が動き始めているのを目にしている。イスラム過激派はもはや影に隠

れて無作為のテロ攻撃を計画しているわけではない。今や彼らは、ロンドンやパリをはじめとする大都市で、「ユダヤ人に死を」というナチスのスローガンを叫びながら行進しているのだ。今ならまだ、各国がこうした過激派に対処する時間はある。しかし、彼らのイデオロギーを深化させたままにしておけば、やがて西ヨーロッパの街頭で血が流されることになるだろう。今週は非常に悲観的なニュースレターだと認識しています。いつもなら、「これを祝いましょう」や「神がここでどのように働いたか見てみましょう」など、最後に良いニュースを載せるのですが、しかし、私はここ 2 週間、この話に没頭しています。私は、ひとりの人間が他の人間に対して行うとは想像もできなかったような事が、自国民に対して行われている証拠の写真を見てきて、今ではそれらが可能であることを知っています。私は神が支配しておられる事を知っています。私の信仰はまったく揺らいでいません。私は聖書を学んできたからこそ、この物語の結末を知っています。しかしソロモン王が語ったように、「泣くのに時があり、笑うのに時がある。嘆くのに時があり、踊るのに時がある」(伝道の書 3:4)。今は笑って踊る時ではありません。今は泣き悲しむ時、そして今はまた「戦いの時」(伝道の書 3:8)でもあります。神がこの戦いに軍隊を導き、敵がすぐに打ち破られ、私たちイスラエルが再び「平和の時」に戻れるように、どうか一緒にお祈りください。最後にもう一つ、先週はたくさんの誕生日のメッセージをいただき、本当にありがとうございました。確かにとても異例の日でした。家族の半分に別れを告げ、戦争に関しては特に波乱万丈な一日でした。しかし、多くの方々の愛とサポートを感じることができました。あの日、皆さんが私を本当に祝福して下さいたということを知っていただき。

アミール・ツアルファティ

Ω

<お知らせ Announcement>

★ 11月5日(日) お昼にたこ焼き提供あり

MGF はキリスト狂徒の集まるキリスト狂会

「教会 [マラナサ・グレイス・フェローシップ (略称: MGF)] はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです」(エペソ 1: 23)。「あなたがた [MGF] は、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ 2: 10)。